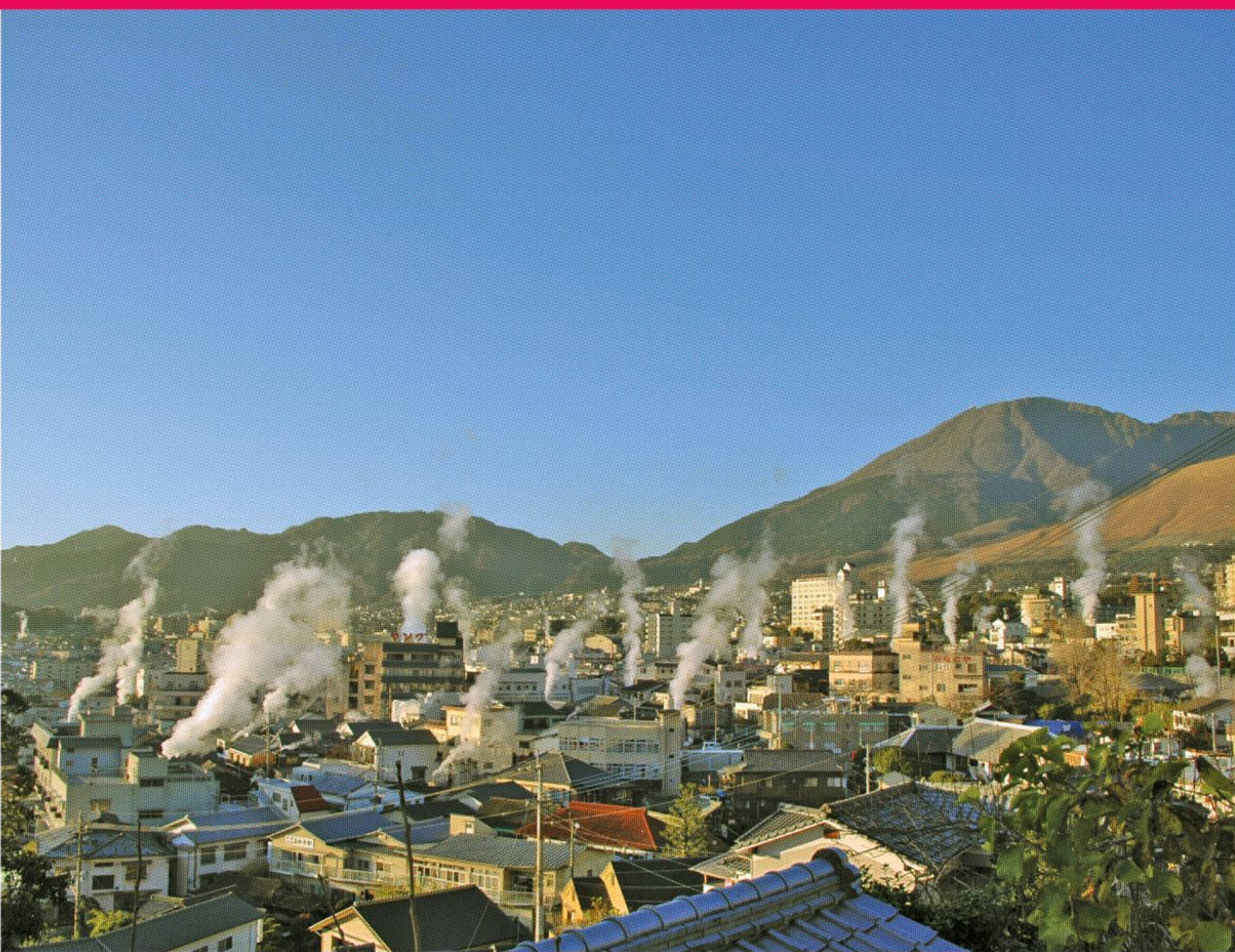


Cornestone deep plowing

基軸深耕

日本一のおんせん県おいたの要である別府市。国内外から年間約800万人が足を運ぶ全国有数の観光地は今、少子高齢化が進む中で持続的な観光客の取り込みに知恵を絞っている。未来を担う若手リーダーたちの原動力は「泉都の誇り」。身近にあふれる別府の魅力を再認識し、効果的に発信していくための方策を語り合った。



別府の湯けむり

12万市民「別府プライド」

プラスアルファの魅力

百崎 別府市の基幹産業である温泉を核とした観光サービス業は一時代を築いています。今回は今の課題、温泉プラスアルファの魅力をつくっていくためには何が必要かを考え、未来へのキーワード、具体的な方策を出していきたいと思っています。まずは自己紹介を。私は大分県政の担当で観光戦略の取材もしているの、別府の生の声を聞きたいと思っています。

木村 2000年に長野県から婿にきました。外から見た目で宿の改革に取り組んでいます。

本田 私は別府で生まれ育ち、高校卒業後は東京にいました。12年ほど前に後を継ぐために戻り、5年前から明勝で組合をつくって街の人たちと活動しています。



若手リーダー
あさひ新聞 記者
本田麻也 さん

門脇 大分市出身で別府マニアとして街づくりの仕事をしています。オンパクのマネジメントや鶏天、冷麺の食の取り組みのとりまとめもしています。別府と大分の飲み歩きイベント「路地裏ハル」の開催も。地域の資源と地域の人たち、観光客の橋渡しの役と思いながら活動しています。

樋田 観光旅は通算11年目。今まで感じていたことが正解なのか間違っているのかも含めて、皆さんの建設的な意見を期待しながら参加しています。

堀 18年間別府にいたので、皆さんに思いは負けないと思います。びあは首都圏を中心に情報誌を出していて、チケットびあも知られている。びあの武器である情報発信の立場から話をさせていただければと思います。

強み知ることが出発点

百崎 議論のスタートとして、堀さんから外の

目で見た別府観光についてお話を。

堀 別府には武器があると思っています。間違いない温泉は有名ですし、別府出身と言うとうらやましがられる。別府に帰って来ると足りないことや弱点を言われますが、さびれている観光地が多い中、ぜいたくだなど。昔のいい時代をベースに考えると難しいが、足元を見ると捨てたものじゃない。強みや残さないといけないものをきちんと知ることがスタートだと思います。

百崎 木村さん、北浜かいわいの現状や集客などについて聞かせてください。

木村 別府温泉という名前だけは知られているが、どこにあるか知られていないのは残念です。自分が来てからこの15年間、北浜はあまり前に進んでいないのが現状。今は若手の仲間と北浜にどんな魅力があるかを話し合いながら、インターネットを使った情報発信に取り組んでいます。

百崎 地元のお客さんを大事にしていると聞きましたか。

木村 地元の人々が旅館を使うというスタイルが減っているの、社長になった時に地元の人に使ってもらいたいと思いました。地元の人に良さを知ってもらい、その人たちが外にアピールしてもらうと比較的回り客になる。人の声には重みがあります。

若い世代にアプローチ

百崎 門脇さんは別府の下町感に魅力を感じたと言われていましたが、街歩きの仕事掛けについて。

門脇 北浜は昼間のサービス業が少なく、観光地らしいキラコンテンツが必要な地域。飲食店が多いという強みがあるので、店の人たちに会ってもらい、もう一度会いたくなるような仕掛けをしています。大分の場合は資金の投資先として

飲食店があるが、別府の飲食店が面白いのは自分がうまいものを食べさせたいから店をやっているという人が多いこと。そこは強みです。

百崎 明勝は秘湯感という温泉の原点の魅力があると思いますが、どう発信していますか。

本田 八湯とはいいますが、明勝温泉は「別府八湯温泉まつり」に参加したことがなかった。組合を立ち上げたときに、まずは八湯の中に入ろうと、旅館だけでなく飲食店も交えてこまめにミーティングをするようになりました。別府市の助成をもらった明勝の地図作りも地区の人が集まるいいきっかけでした。明勝温泉はあまり知られていないので、地獄蒸しプリンを食べに来る人は多いですが、日帰り湯に入る人は少ないし、にこり湯のことも知られていない。そこで名前を広めるために土産づくりを始めました。効能を調べたら体にいいヨモギに着目し、温泉で体を温めてヨモギのお茶を飲んできれいになって帰ってもらおうという「よもぎプロジェクト」を立ち上げ、作ったものを東京のギフトショーにも出品しました。

堀 東京のお客が求めているのは明勝の秘湯感の雰囲気。明勝がマイナーとは初めて知りました。

百崎 市の観光の現状、観光戦略は。

樋田 平成24年の観光客数は約800万人。12万人都市に800万人が来るというのはものすごいことだと思います。過去かどうかという話ではなく、ここからスタートして今後を考えたい。まず温泉は核として日本一であることを誇りながら宣伝しなくてはなりません。昭和40年代の別府市は新婚旅行や修学旅行のメッカで、必然的に別府に来る状況があった。当時の修学旅行客は100万人を超えていましたが、今は3万8千人くらい。今の別府観光にきている年齢層は50代以上が多く、思い出がきっかけで旅行先を選んだ。こ



若手リーダー
悠彩の宿望海 代表取締役社長
木村大成 さん



若手リーダー
別府市ONSENツーリズム部
観光課長補佐兼誘致宣伝係長
樋田英彦 さん

れからはそういう必然的な状況がない若い世代にどうアプローチしていくかが課題です。東西12°。の中に遊園地、温泉、食べ物、海、山、湖と、あらゆるものがあり、年齢によって楽しみ方があるのが別府の魅力。観光宣伝も木村社長たちのような若手経営者の話し合いなどに参加することで、皆さんが求めていることや市がすべきサポートが垣間見えてきました。

他の街がうらやむ武器

百崎 どういうところをアピールしたいですか。

木村 長野にいた時のイメージで言うと、別府温泉の写真は鉄輪の湯煙しかなかった。海があることも別府湾という名前も知らず、こんなに繁華街があつて来ている街だと知り驚きました。全国には一つの食材しかアピールできないまちがある中で、別府には食材でも海山の幸、牛、豚、鶏と武器が足りない。新しいものを探そうと今あるものを磨いて使いたい。北浜は駅から歩いて行ける、2千人が泊まれる温泉地。地域の基本的な魅力をインターネットや雑誌などの活字でしっかり伝えていきたいです。これだけ武器がある温泉地は全国でもまれで、うらやまされます。

本田 市が八湯のポータルサイトを作って管理してくれたらいい。別府は広いので、一つ一つの温泉地が発信するものをつづけたら選びやすくなり、別府の中で2泊、3泊となるかもしれない。

百崎 情報発信は大切ですね。最初に足を運んでもらうために発信で心掛けたことは。

門脇 僕が別府を好きになったのは竹瓦の街歩きがきっかけです。路地裏散歩のガイドのおじさんがすごく楽しそうに伝えてくれて。別府はコンテンツが多いので、この人が推薦するこれ



若手リーダー
NPO法人ハットウ・オンパ
事業マネージャー
門脇邦明 さん

が面白いという切り口でいいかなと厳しい。要是

楽しそうに宣伝できるかどうかだと思います。

木村 魅力ある皆さんのコンテンツをどう伝えていくかですね。

百崎 魅力探しに悩む他の土地と、別府は出発点が違うような…。

堀 情報の整理は必要です。出す情報は必要なものだけで数は多くなくていい。何を出すかはみんなで話し合う。まずやると決めることからだと思います。市や大分合同新聞が別府市の公式サイトを作っては。800万人のお客さんが口コミしてくれるんですから。

人が住んでいる観光地

百崎 別府の武器は何かを確認したいと思っています。武器を魅力と言い換えてもいいですが。

本田 やはり人だと思います。裏路地のカウンターでそのママとしゃべりながらご飯を食べたら、すごくおもしろい。人に会いに来る街。

百崎 一人一人が観光地になるような。

門脇 それが理想ですね。観光地でこんなに人が住んでいるところはなく、温泉に憧れて移り住んだ人が多いというのが面白い。他の都市にはあまりないことだと思います。

本田 温泉だけでなく、周りの人との触れ合いに癒やされたり、素朴な愛情が感じられたからではないでしょうか。

木村 温泉、食、そして交通の便良さ。空港や高速道路のインターチェンジから訪れやすい。当

たり前と思われがちですが遊ぶ所も多い。車で30分以内に遊園地も水族館もあります。この四つは観光地としてはすごい武器。日本人は旅行期間が短いので、あれもこれも楽しみたい人は別府で濃縮した時間を過ごせていいと思う。東京で働いていた時に聞いたのは、別府温泉は知っていても何県かは知らず、大分県と言えば湯布院のある所だと。

本田 飛行機に乗って湯布院に来た人が別府の魅力も知っていたら、車で40分くらいですから流れて来るかもしれない。楽しく過ごしてもらえれば次回は別府に泊まる可能性もある。湯布院の知名度をプラスに取り、そういう流れを発信してもいいんじゃないでしょうか。

百崎 以前由布支所に勤務していたんですが、湯布院からは熊本県の黒川、小国方面に流れるパターンが立派だった。湯布院とまったくタイプ違って、新しい連泊のアプローチも一つの手かもしれません。

木村 別府市が動いている二湯めぐりもなかなか知られていません。明勝と鉄輪の泉質の違いを生かした「ジャンパー&リンスの湯」といった宣伝です。海と山など、同じ地域の違う宿で連泊するプランも旅行会社に働きかけているところです。

堀 どの客層に訴えていくのかベクトルを合わせるために、「このターゲットのためにこの取り組みをしている」と、行政もホテルも開示している方がいい。別府市の人同士の情報も共有していかないと。正しい情報でないと来た人ががっかりされます。

異文化の“混浴”みたい

百崎 これだけいろいろ課題があつても800万人も来ている別府ってすごい街だなとあらためて思いました。少子高齢化、旅行日数の短期化などで、最近ではインバウンド(外国人旅行者を自国に誘致する)が鍵を握ると言われていますが、海外向けのアプローチは。

樋田 海外の日本観光展に別府市が出展するときは通訳を雇わず、APU(立命館アジア太平

洋大学)の卒業生にお願いして別府市のブースで直接アピールしてもらっています。住んでいて良かったことを正直に宣伝してください。

木村 海外の人は自分で歩いて楽しみを探すのが好き。写真を撮る場所もマンホールを撮ったり、感覚が日本人と全く違う。アジアと欧米ではまた違うと思います。例えば昼からお酒を飲みたい文化の人には、その楽しみを見つけてあげる情報提供をしていかなければと感じています。北浜には宿泊まり型の宿もあるので、そういう所との情報交換も必要だなと。

堀 話を聞いていて、別府って混浴みたいな街だなと思いました。異文化やいろいろな人を受け入れる。しかも前向きに。

パッケージする力弱い

百崎 分科会のキーワードを考えたいと思います。

門脇 うちは頑張っている人を応援する団体なので、未来志向の言葉がいいですね。答えではありませんが、別府は豊富な魅力を商品としてパッケージする力が弱い気がします。これもあれもあるよと言ってしまふ。例えば別府市全体で何でも使えるバスがあるといいのかなと。どこでも遊べて食べられてみたい。そんなチャレンジもいい。

百崎 魅力をどうつなぎ発信していくかです

本田 800万人がすごいいい話ですが、みんなが潤っているわけではないし、そこで満足してはいけないと思う。人とのつながりは絶対大切で、みんなまで話して合点原点を正して、別府の良さをいろいろな人に知ってもらい、もう一度来たいという街づくりをしなくては。明勝も原点復帰で田舎らしさを出していこうとしています。

堀 変えるところと守っていくところを整理するのは大切ですね。健康志向で別府はチャンス。健康ブームはこれから長く続きますから、温泉の効能などを正確に伝えていくことは重要で

本田 別府は自然の力で健康になれるというヘルスツーリズムも打ち出していきたい。

堀 こういうお客を狙っている方針を開示して、協力していくのいいと思います。

樋田 時代の中でターゲットの比重は変わってくるので、その時に対応できるころは狙ってほしい。みんなプライドを持つとういいたい。800万人を呼べるものを提供している街を誇りにしないと、ポジティブな話にならないと思う。

木村 時代背景や伝え方が変わった今、「原点復帰」の原点はどこかを整理し、別府に何が大事かをしっかりと伝えていこうとあらためて思いました。

誇るべきところを磨く

百崎 別府市の観光はスケールが大きく、いろいろなアプローチがある。まとめが難しいですね。

樋田 帰郷帰郷ではなく進みたいですね。

門脇 稼こうぜという部分も盛り込みたい。

堀 住んでいる人も共感してほしい。

本田 「裸の付き合い」は。情報を共有し、職場や肩書を抜きにして付き合っていく。

木村 すこい街なのに自信を持っていない。自信のない街に人は行きませんよね。

樋田 「プライド」にしますか。

堀 「別府プライド」。

本田 それを発信していきましょう。

百崎 誇るべきところを磨いていこうということですね。いい時間をありがとうございました。

ひとときを、
思う。

JT

はじめた人がいる。
つづける人がいる。
じぶんは、
こうしてふるが、ていこんだ。

ここちよい世の中をめざした、JTの取り組み

■あなたが気づけばマナーは変わる

たばこを吸われる方の喫煙マナー向上のために、「あなたが気づけばマナーは変わる。」というメッセージとともに、ポスター、喫煙所のステッカー等による呼びかけを行っています。

■ひろえば街が好きな運動

「ひろう」という体験を通じ、「すてない」気持ちを育てたい。そんな願いから生まれたこの運動は、どなたでも参加できる清掃活動で、全国各地でこれまでに延べ120万人以上の方々にご参加いただいています。

■分煙コンサルティング

公共施設や商業施設、オフィス等、各施設の特徴や利用される方々のニーズに応じた「分煙コンサルティング」を実施。分煙方法についての知見提供・提案・アドバイスを行っています。

吸う人も
吸わない人も
ここちよい世の中へ。

豊富な味わいや香りを楽しんだり、リラックスしてひとときのゆとりを得たりと、世界中に愛用者がいるたばこ。大人の嗜好品として、長く愛飲されてきました。たばこを吸う人と吸わない人が協調する共存社会を目指すJTが、たばこのあれこれを紹介いたします。たばこのこと、ちょっと考えてみませんか。

JTメッセージ

たばこ税について

たばこの価格には国たばこ税、地方たばこ税、たばこ特別税、消費税という4種類の税金が含まれています。これらを合わせると、たばこの税率は本体価格の6割強を占め、日本で最も税率負担の重い商品の一つになっています。

たばこ税は一般財源であるため、その使い道に制約はなく、各自治体の裁量に委ねられています。

例えば、1箱430円のたばこの場合、国たばこ税は106.04円(24.7%)、地方たばこ税は122.44円(28.5%)、たばこ特別税は16.4円(3.8%)、消費税31.85円(7.4%)となり、たばこの税率負担の合計は276.73円(64.4%)になります。(右図1)

ガソリンは約44%、ビールは約48%ですから、たばこの税率負担の大きさが分かります。地方たばこ税は都道府県税と市区町村税に分かれており、自治体ごとの売り上げに応じて税収は異なります。一例としては、大分県内の自治体別内訳は右のようになっています。(右図2)【総務省：統計情報より】

※日本国有鉄道清算事業団及び国営林野特別会計の負債を一般会計に承継させることに伴い生じる負債を補うために創設。

図1 たばこの税負担合計(1箱430円商品の場合)

国たばこ税	106.04円(24.7%)
地方たばこ税	122.44円(28.5%)
■国たばこ税	17.20円
■地方たばこ税	105.24円
たばこ特別税	16.40円(3.8%)
消費税	31.85円(7.4%)

図2 平成24年度 県・市町村たばこ税

大分県	2,666,610	総務省：統計情報より 単位：千円
大分市	3,351,552	杵築市 189,952
別府市	920,641	日出町 187,420
中津市	681,503	国東市 180,771
佐伯市	494,689	豊後高田市 169,460
日田市	494,245	玖珠町 141,015
宇佐市	379,341	竹田市 138,283
臼杵市	249,951	津久見市 113,122
豊後大津市	232,463	九重町 44,008
由布市	207,729	姫島村 10,925